

市立浦和高等学校野球部通信
発行者 鈴木 諭

発行日 R 7. 4. 30
発行ナンバー 1175号
(北村主将の代・・・72号)

春季県大会（3回戦）の結果

● 県大会3回戦 対市立川越高校

| 学校名 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 計 |
|------|---|---|---|---|---|---|---|----|---|---|
| 市立浦和 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | | 1 |
| 市立川越 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 5 | 1× | | 8 |

相手校が決まると、だいたいどのような試合になるかを想定するようにしています。○点以内に抑えて○点取って勝つ、あるいは○点までの失点はOKというような感じ。今大会、ここまではその想定が結構当たっていたんですが、対市立川越高校戦はちょっとどのような展開になるかを想定できませんでした（市立川越高校さんはそれぐらい把握しづらいチームでした）。

そんな中行われた試合は、上記のような結果となりました。コールド負けしておいて言うのもなんですが、試合内容は五分五分、市高にも十分勝機はありました。そこを追いつけず追い越せなかったのは、私の采配のmazさだったと思います。

また、この試合はエースがケガで投げられませんでした。私自身が最後の夏、エースが先発しないで（温存して）敗退しているので、そこには強いこだわりがあります。夏は今日のような負け方はしたくないと思いました。

どちらにしろ、個々の力をもっともっとつけなければ話にならないかと・・・夏のシード権を獲得しましたが、今日の試合を見る限り、目標は甲子園などと宣言できるチーム力ではありません（現時点での目標は、シードの役割を果たすこと＝県ベスト16だと思います）。

すぐに夏（の大会）が来ます。

頑張りましょう！

春大会、たくさんの応援、本当にありがとうございました。

甲子園でなくても・・・

この時期（春なのに暑い日などがある時期）話題になるのは、「暑い中実施される夏の大会のこと」だと思います（今年はどうな対策をするのだろうか・・・みたいな）。

先日、若い指導者の方と話した時（私からすると）衝撃的な発言がありました。それは全国大会、別に甲子園じゃなくても良いのではないかと。その期間、ジャニーズ（って今は死語？）のコンサートのように（空調が効く）全国のドーム球場を借りて一斉開催、勝ち上がったチームが最後、どこかのドームに集結して準決勝や決勝を戦うというような運営方法ならどうだろうか？暑さや日程面をクリアできるのではないかと・・・そんな話をしていたのです。

憧れの甲子園！

私（51歳）の世代からすると、甲子園以外での開催というのは信じられない話ですが、今の時代、このような柔軟な発想も必要なのかも・・・そんな感想も持ちました。

大学受験を考えると、夏に最後の大会があるのはベストと思われます（一般受験まで半年あり、勉強に切り替えられる）他競技は最後の大会が早かったり遅かったりですので・・・

この問題、結局は様々な考えをダラダラ書くだけで終わってしまうんですが、今後、高校野球夏の大会の運営方法がどのように変化していくのか・・・

注目していきたいと思います。